

古今圖書集成

八編

下

^ 13
2909
27



門へ 13
號 2909
卷 27

後編 寢覺線言 卷之九

江戸

為永春水著

第四回

百足の虫死するに至る。猶その體倒るるは佐
くろ去の多きがある。さき下袋千葉郡。其名も
高見正胤の娘。あとの冊。三葉四葉の殿。道の
いと奥深き窓のうちに。養ひ置る。此も律。此
母のち。らひふ乾り。結。す。り。濡衣と。その此に。り。り。

昭和九年九月二日

やし山（山）花（花）の盛（盛）と夜（夜）嵐（嵐）よ吹散（吹散）さきし侘住居（侘住居）今（今）ハ
 杖（杖）さす柱（柱）さす。特（特）むハ二見夫婦（二見夫婦）の人（人）殊（殊）ふも烈（烈）き虚（虚）
 病（病）心地死（心地死）ぬぐくも。者（者）病（病）疎（疎）るるさきし。その發（發）
 小（小）や此（此）程（程）ハ大（大）くさふ愈（愈）りて。まご沐浴（沐浴）とバせざれども。髪（髪）
 のこハとりあびら。今日（今日）ハ日（日）和（和）も殊（殊）よよく。冬（冬）の目（目）るる
 麗（麗）るまは。木の椽（椽）先（先）は端（端）居（居）て。四方（四方）の氣（氣）をこと旅（旅）
 は。たを懐（懐）くしき故（故）ら。の空（空）ふら痛（痛）む心（心）のら。過去（過去）
 未（未）来（来）さるぐと。あひは。けて居（居）り。此（此）家（家）の女（女）房（房）

ハ良（良）人（人）が帰（帰）るも。その外（外）ハ障（障）たりと。たまは月（月）も
 ぬと。音（音）信（信）るる。まは案（案）下（下）苦（苦）。あやお因（因）が容（容）子（子）敷（敷）
 くて。中間（中間）ぶる。めう氣（氣）づら。と。あ。今（今）ハ在（在）方（方）る
 庚（庚）莫（莫）も。も。耐（耐）流（流）。と。し。此（此）。あ。て。あ。も。雲（雲）井（井）は。夫（夫）
 と。射（射）る。ど。く。して。届（届）る。ぬ。め。の。と。と。己（己）。ま。ら。弱（弱）る。心（心）と。勵（勵）ま
 して。曲（曲）突（突）の。傍（傍）。ま。の。益（益）。伯（伯）の。ま。く。と。や。林（林）。下（下）。を。鶴（鶴）の
 及（及）跡（跡）ハ。か。け。る。も。裡（裡）口（口）の。榮（榮）。と。く。ん。は。ま。ま。王（王）味（味）。嘈（嘈）の。味（味）
 も。受（受）く。郵（郵）の。住（住）居（居）。し。と。ま。壙（壙）。く。こ。ん。く。ま。り。か。る。所（所）ハ

あるるハ村の歩行ク門口から一浦あるどののらうに
おちら ありき へんごち
 びるう地所開く、おぢりうし 中役人がびららしうて言はす
ごぢりうし
 高かある正里の家のびららト言とて行とお松ハ
せりや
 欠りて松一モシく一らの浦あるハ此方から遠くへ往て。
さう
 まどぬらわがま入がごぢらぞ聞くとお特トはをり
まじ
 歩行ハるのむひて一ツそのやア困このんど。あらう
あつき
 為らるう仕方がお亭主の代りハ女房の役ど。
しごと ころめ くら
 おめも後あるあしあ松一そ見ハお日カイ直るがら。
ちんちん とき

こころが往てもおつらまののるらみなるくお松の
 かく一イやく、そらハるのやせん、おちらん 商人が為るるハ女房
るす
 とは言て。お松と申すは松一モアそ見ハ後ハお松の
まの
 所用でびらりのまらうハるんの高うアあらわが、お松ら
こころ
 中りトやアお中村中一体の高ぶよふりて。ま、おちらん みる
なか
 びららら一からトお松をそくハ孤生と此男なるのこ
おちらん
 るるはと歩りがりハ氣をあらうしほど見るもあつら
あつき
 びとあふぬを院の方と見えりて世ると保るる高
おちらん

るがら。勿体^なる心と心^のあつてこぼしこぼしとちきこぼしと
松^の重^のこよはははらゝぬもよるおどりの容^の子^の少^の
いと縁^の軽^のの風^をまきまきと居^るもまこその上^のふ風
でもひらいて。自分^も苦^く傍^{でも}苦^勞。サウ^の内^へ
遠^入るさあや。そして吾^の傍^のハ里^の正^さなるうら。急^用がある
急^用あると歩^りおのづか觸^て来た^るこゝろ。ソ一^下走り
いて来た^ました。今^は焚^おろこは版^とおんちへ移^り
て往^つてとあつた。もろろとあつたこゝろまゝにけまに

して往^つるどよお汁^ぐあえそらおまへのお箱^の拵^へ
てあるこゝろと待^たせに早^く給^て仕^まひのまはつたよト
いひるがら立^寄り税^の下^落も片^目の被^りたる。おま
あつて塵^らたらたらひまるめてあつた。腰^へお入^らる
急^ぎまゝに娘^の重^三ハえかゝりて。えるまゝ早^くお戻^り
と言^ひ障^子と引^きこも。曲^突の傍^へよりそのつ薪^の
とくおまゝお松^がおると今^もくるとまゝの所^のお管^をおま
深^きの律^持梗^の。合^羽とさる一個^の旅^人。白^根

松の重三

作^ア子の服差^{コト}ふも織^{オリ}の袋^{フクロ}と柄^ハへけ^ケ。袂^{タビ}包^{ツミ}ま^マと
 脊^{イソム}負^ムらる^ルが。むらと此^{ココ}家^{イヘ}入^イり。毛^{モウ}見^ミえ^エは^ハら^ラ
 多^タ。荏^ニ土^ツのむら^ム入^イ往^ウやま^マとあ^アや^ヤ。此^{ココ}村^{ムラ}和^ワ色^{シキ}とま^マら^ラ也^ヤ
 久^クト同^{トウ}き^キとく^クあ^アつと常^{トウ}娘^メの。重^{オモシ}三^{サン}ハそ^ソる^ルことま^マら^ラむ
 き^キて^テハ^ハ大^{オホ}く^クこ^コそ^ソう^ウで^デび^ビざ^ザり^リま^マせ^セら^ラ。ど^ドう^ウも私^シ私^シま^マら^ラ
 かり^カら^ラト^トら^ラの^ノ白^{シロ}く^ク。丹^ニ花^ハの^ノ唇^{クサ}葉^ハ蓉^{ロウ}の^ノ
 眸^メ年^{ネン}ま^マし^シり^リま^マご^ゴ二^ニ八^{ハチ}と^ト出^デま^マじ^ジく^ク。沐浴^{オモ}せ^セら^ラと
 入^イて^テ。襟^エハ^ハ班^{ハン}は^ハ垢^{カウ}潔^{ケツ}と^トれ^レど。その^{ソノ}面^{オモ}彩^イの^ノ麗^リは^ハく

さ^サて^テも^モ彼^カ業^{ヤク}平^{ヘイ}の^ノ童^{トウ}ご^ゴら^ラ。世^セ宮^{ミヤ}の^ノ大^{オホ}夫^ウが^ガ飯^イふ^フも^モお^オき^キ
 お^オき^キ取^{トル}ぎ^ギる^ル美^ミ少^{ショ}年^{ネン}も^モる^ルより^{ヨリ}旅^{リョ}人^{ニン}ハ^ハ恍^{オウ}惚^{トク}と^トか^カる^ル侘^ワ
 一^{ヒト}き^キあ^アら^ラ位^イ人^{ニン}あ^アち^チ似^ニけ^ケる^ルた^タ客^{キヤク}形^{カタ}女^メあ^アら^ラて^テこ^コら^ラ
 る^ルこと^トあ^アひ^ヒる^ルも^モえ^エお^オう^ウが^ガ。その^{ソノ}面^{オモ}彩^イの^ノ志^シ色^{シキ}が^ガこ^コら^ラて
 ま^マご^ゴら^ラり^リ毛^{モウ}見^ミえ^エモ^モウ^ウ何^{ナニ}附^ツり^リま^マた^タの^ノト^ト言^{コト}
 は^ハそ^ソの^ノ処^{トコロ}へ^ヘ腰^{コシ}ら^ラち^チか^カく^クま^マ重^{オモシ}三^{サン}ち^チ小^コ首^{ウタ}正^{マサ}似^ニけ^ケて^テハ^ハ
 モ^モウ^ウ彼^カは^ハ午^ウ刺^サと^トま^マん^ン。羨^{オウ}へ^ヘハ^ハテ^テそ^ソう^ウの^ノト^トの^ノひ^ヒる^ルも^モ
 腰^{コシ}より^{ヨリ}引^ヒき^キま^マ相^{アイ}見^ミ入^イた^タく^クり^リく^クと^ト要^{ヨウ}時^ジが^ガる^ルど^ドこ^コら^ラ

新編源氏物語



らん 平太

十三郎



三郎

三

と直してありしがやあつて 旗^あコウ見^あえんおめ入^アマ。此^こ処^こ
 の家^{うち}の息^{いき}子^こ久^くま^まハイさあうでびびりまは 旗^あハムそら
 して西^{にし}親^{おや}や兄弟^{あに}もあ^りか^らうま^いハイあ親^{おや}ハ^いま^ま
 ま^まが兄弟^{あに}ハ^いび^びのま^ません 旗^あハ^いら^うこ^んのやア病^{やま}あ^らふと
 のお母^{おはは}さん^のの。お^うぞ^もあ^らめ^の久^くま^まハ^い久^くく^く怒^どら^ひま^して。
 かうくとけ^よ五^ご六^{ろく}月^{げつ}初^{しつ}してあ^らし^まし^ます^ら次^{つぎ}な^らむ^らど^ひと^類ハ
 直^{ただ}し^ます^らま^ま。よ^うく^あら^うら^うら^うあ^らま^まう^くあ^らん^ど旗^あヤ^らく^そのやア
 可^い也^いそ^うに[。]コ^ウは^いえ^んお^め入^アま^り。男^{おとこ}が^うが^らく[。]

うら。そのやア娘^{むすめ}のあ^らむ^らら[。]ま^まハ^いお^め入^アえ^ん
 そ^んる^まま^まハ^いび^びのま^ません 旗^あハ^いら^うこ^んのやア病^{やま}あ^らふと
 直^{ただ}し^ます^らま^ま。よ^うく^あら^うら^うら^うあ^らま^まう^くあ^らん^ど旗^あヤ^らく^そのやア
 可^い也^いそ^うに[。]コ^ウは^いえ^んお^め入^アま^り。男^{おとこ}が^うが^らく[。]

て格の下るのくわがきままやアおめいハ兄弟きやうていはは。ころこ
一個のひとりの此こどのりららら。おきと見み身み多たなるらわら。
そらせるのやアコーグキキ。叔おぢ父ちちの家と続ぎと履
るら。ハニ金かね根ねよよ変へハかままおめのらのらふら。ててに
しててモモ侍さむらいよりららママとまママ商人しやうじん多たりり職しやく人にんかり。
但た一いつ生せいぢぢららくくとと無む事じもも多たすすでで居いてて入いととりりママ。
そらううててももててももやらうう。さらるる鄙おぼでで宇う押おしの處女によのらぬら。
のらぬららら。ちちらら小こ徳とくややももおおぢぢでで。ああのらぬらららぬら。

あら。あつゐあつゐの身がまちちうう何なにうう。そこではよよももハハ源げん伯はく家か子し。
う。日ひ教けうととううてておおててるらととここるるのらにに。ハハ角かく十じゆ文ぶん字じのあらう。
おおししいいんんははまま奴やつとと拘こうてて癖くせももああぢぢままししへへおお可かおおぢぢささらら
憎にくままるる。さらううてていいふふ言ことば中ちゆうのらううへへととおおししらられたら
野のががややううのう敷しきででいいふふのらううににががててくくててももああぢぢささるる。
此これれのらややららううのらここららいいままととままししてて見みてて。日ひ身み多たるら。
ああせせ入いるらのらててくく自みづかりらのらややアアそそのらややアアおお荏じん土どでで水みづ乃ののら水みづにに
くくららままりり魔まのら處ところ女によささんんででももぐぐららりり落おつつのら大おほ名な田た。

種^まあ^らの^さる^るく^りして揚^{イホ}枝^エの^かり^るみ^いら^された^で。雪^{ゆき}
 しろ^い股^{また}ら^らに熊^{くま}ぢ^りめ^んの^み鼻^な禪^{ぜん}と。お^もろ^く
 とひ^らは^らし^らし^て。ま^まお^まま^なん^いぢ^らる^まら^まう^こ
 る^んぞ^とこ^らめ^て。い^やま^うの^かり^るま^まや^{。お}ま^ま
 衆^{しゆ}迹^うでも^{。観}音^{おん}でも^{。あ}ら^いは^はく^かり^る養^{やう}老^{らう}を^えと
 お^め入^いの^じ由^{ゆう}の^さし^てを^らら^うあ^じし^そん^る美^び婦^ふ人^にと
 こ^んご^まま^があ^らめ^りら^ら衆^{しゆ}の^し所^{しよ}が^らら^らね^がた^らか
 世^せ間^{げん}の^ひ評^{ひやう}判^{はん}で^まさ^こる^もあ^るど^らら^う。三^{さん}人^{にん}間^{げん}ハ^五

十^{じゅう}年^{ねん}く^ろ六^む十^{じゅう}年^{ねん}の^い命^{めい}で^こけ^んま^さる^るこ^の面^{めん}白^{はく}良^{りょう}
 とま^さる^るの^ぐ一^{いつ}生^{せい}の^徳ど^くも^よ。ウ^う哥^か々^々を^まさ^こら^らお^れ
 が^ら弟^{てい}ぶ^んふ^るら^て是^こわ^く。え^んま^まみ^るる^らと^らう^め
 し^んト^とね^てく^どう^うと^肘と^らき^{。自}と^をら^らる^まま^まあり
 ね^んに^まま^まア^とサ^ざら^らぞ^ゆ免^{めん}る^まん^{。私}風^{ふう}情^{じやう}と^れ疎^そ
 切^きに^あり^がら^らま^まん^だら^らま^まん^だら^ら。鄙^{ひやう}て^育ま^まう^こお^らわ^ら
 ち^の田^{でん}舎^{しゃ}ウ^うふ^いぢ^ぢま^まま^まと^こと^入あ^らる^こと^在主^{しゆ}へ^系
 つ^て。そ^んる^る女^{にょ}中^{ちゆう}と^あら^り持^{もち}で^うや^女房^{ぼう}に^いあ^り

ても朝あさや晩ばんよ心こころつるひそまじりハ芋いも掘ほでも苦く勞らう
 なく居ゐまのららうがは旗はたハまあひらるるた麻律あさ依よりど見み
 おぬのいのいのハあ喻よのいの食けにた膳ぜんをま婦むみらうとどま
 仕しうらおく井いの蛙か大海うみをおうおるるコウ哥か々々鬼おに
 かもおきづのいままとおのまおくこトも初はりいハり
 ちやアコトと人ひとおりづ不羞しゆうをもそんあらうとをと
 大人おとなとあるるぐぐ健けんぐ跡も引きぬきさサク返へ夏なつ
 とてくまトせ死しよ急と松蔭かげの後をまかて

かまくりさとて重三じゆうさんとまううと引下ひきハアしけ人ハと
 娘むすめの重三じゆうさんトイハし眉まゆを皺うちト色トまそるハ其
 ちう兼かね家けに仕えし侍さむらい人ひと星ほし影かげ運うん平へい太た赤あか藤ふじの
 能のうとて不ふ笑わらひのひのひのその言訳わけもあらうらうナとおの
 時ときのと世よと忍ぶ男とあるるハ夜の飛そることとあらるも
 ほしらハいふそと除のぞきと月つきと怒らうナらんこととあらる
 ては方かたハ物くら右みぎ視み左ひだり視みて完ふと笑わらひ見ハ分ず
 あらるる常つね娘むすめさぬとりやいふ所でそうとあらるら次つぎ

美しき少年とありて物もなき縁あり
ぞやよりして旦夕に心とそくし物と焦し。さうぞ一
回のお情とこ。あふあふ母君より。ア常姫とそ
あふあふ。女房にそせ方と厚い。何このやま
と。その夜と待てまじ。流て。いづくも傍へ近づく。と
あふもよるぬ近習の人々。怪しき奴とえ答ゆるも。
やうなる姫もろまろるれ。夫より終よおをしきと。
途出てもあるこの夏。あふ降ハこころません。

そとくららぐらと身と落し。木樵山夫とるり果
ても。いづらうあるとあふあふ。心とそくして聞らばも。
あふあふ。ハ月をぬ縁し。親市さあより。許されと。
運平太が女房お常。今くら夫婦中よりして。
水も漏さぬ船底の。枕もどのふ一ツ横をぐらと
下せトむと抱はく。運平太常姫あるやと。能
と俊巡姫へあはれるる。運平太そらや家縁の能
である。あふあふ。あふあふ。あふあふ。

した母の討らひに住るれとさるるをいひて世家の
 まぬが世帯よなり。昔方に昔方と重なるも元は
 とりばそちが所なるはときくのも此の流し。サカ
 早くまゝ目下へいづもきつぬ運平太が目見る眼
 と細くして目くこくやその中に情あつたを
 一かものろ主人の女見へたをいひて。うー大内の
 娘屋でもいひ流るる世帯の因果もいひていひて
 その此の因果因果がうーと因一をいひていひて

りていへる。迷ひあつても恋あつても。コトヤ常姫
 さるものやうに。いひ焦るる心もいひて。そのこに強
 面あつてと深殿の后がやるが。鬼とるる。いへて
 があひ。あまの大きなあつた物と自由なまゝ。夫
 といふ。いへていひて。いへていひて。いへていひて。いへて
 目下まゝいひて。着て無理が作。其のあつてと堅あつ
 と。眼であつて。常姫があつて。いへていひて。いへていひて。
 りがたあつて。女の力。強あつて。いへていひて。いへていひて。いへていひて。

新編忠臣蔵

十一

おらうふも瘦やせおとろく強あつち支さええ氣き力りきあり。運う
 平へい太たの足あしをどこと言いふ盲めくら龜かめの浮う木き優う暈えん華げの春はるる
 あひさる心こころ死しして。氣きも魂たまも身みにそのまじり面おもてをさ
 から火ひのまじり。急いそいでておしとらぬ。其その夜よをいと掌あしを
 常とこ姫ひめの玉たまさる斗たうりの怒いかりて叫こゑべと鄙ひなの家居いて。
 隣となりる家いへをえまきとて。准まおとらる。あもほは。あま
 をおしく押お倒たして。婿むこが細こ腰こしをうらと抱かへ。その
 ちりにお登あぎさるる。まう初はつまるりてまじりま。

若わかく志こころづつにいくと独ひとり飲のみとて運う平へい太たおりからゆ
 此この家いへの女に房ぼうお松まつハ遙とほふ是こゝとて。いと怪あやしやと
 おしとらぬ。強あつある音ねと運う平へい太たハ常とこ姫ひめよのそ氣き
 と奪うひ。心こころづつねバお松まつハ馳ははき。こゝろよりたを
 曲まがり。袷あと扱あんで曳ひやとひく。曳ひをそく物ものたり。異ちが
 なる。この老お婆ばめおろく。是こゝまで骨ほねおろこ。おれが
 惡わる路ちの妨たがはる。ト眼まなこと睨にらんで。えうらと良よ。お松まつハ
 まし。二ふた回まいびらり。松まつイヤとて。この運う平へい太たの

海老原



おま

10



十三

3人平太

海老原

11

陽くまあくらくと。足としれてハ天のあらきを

 せんせトりひり早く。兵刃にありあ運平木が

 自ら狼作らしの照指と。技ももこえせずと。照をらし

 指も通とと突ともと急所の痛抵ふありと

 叫び烈火のどく怒とも。五體はうとと働き

 ぬむ。その太刀ひひく此と持へ。おりあらば宝劍

 珍夫の。強きと僥倖さるくと良人浦をあと

 禱言して。知りと忽まちおどりあげ。退拂言と

その目もろ。患難苦勞はらししまま。其

 方が所をとやとハ。たふふとこ人もあり。それのそ

 ろとお娘さるへ。あられぬ不安とのひらひく。そ

 ろと流浪あそびさまじらく患難さるくハ。まま

 文コリヤ運平太眼さるさる其方の首良人に代

 つくまのお松が。昔さらふととのひも果さまじらく

 並と刀の光りと。俱ふ端ちく運平太が首ハ宙

 へぞ落ちりる。から所に表のく。六十六部の修

新編武蔵野

十四

行者まゝらグ。編笠あまがさ眉まゆ深ふかよまままとららのの揚あき杖つぎ突つとと
 空そらうちうち眺ながめめ一ひと今いま怪あやししなるなる午ひる中なかにに七しち曜ようののああららと
 拜まがままままののハハ傳つとくくままくく千ち葉を家けのの重ちゆう宝ほう七しち曜よう丸まるの
 行ゆ劔けんにに生なま血ちととぬぬままととららままららにに星ほし晃きら々々ととああら
 小こ夜よとと給たま言かせせ一ひとそのその昔むかし物ものとと言まささとと言いははるるに
 今いま不ふ測そくややトトのの人ひと多おほきき。常つね娘むすめ共どもとと入いれれせせぬぬてて娘
 そそううのの人ひと多おほききハハトトのの言ことをを言いははせせててままららとと。編あま笠がさををああびびててハハリリヤ
 娘むすめ君ぎみ先さき刺さししよよりりとと容ゆる子こととババ篤あつくくのの言ことををままり

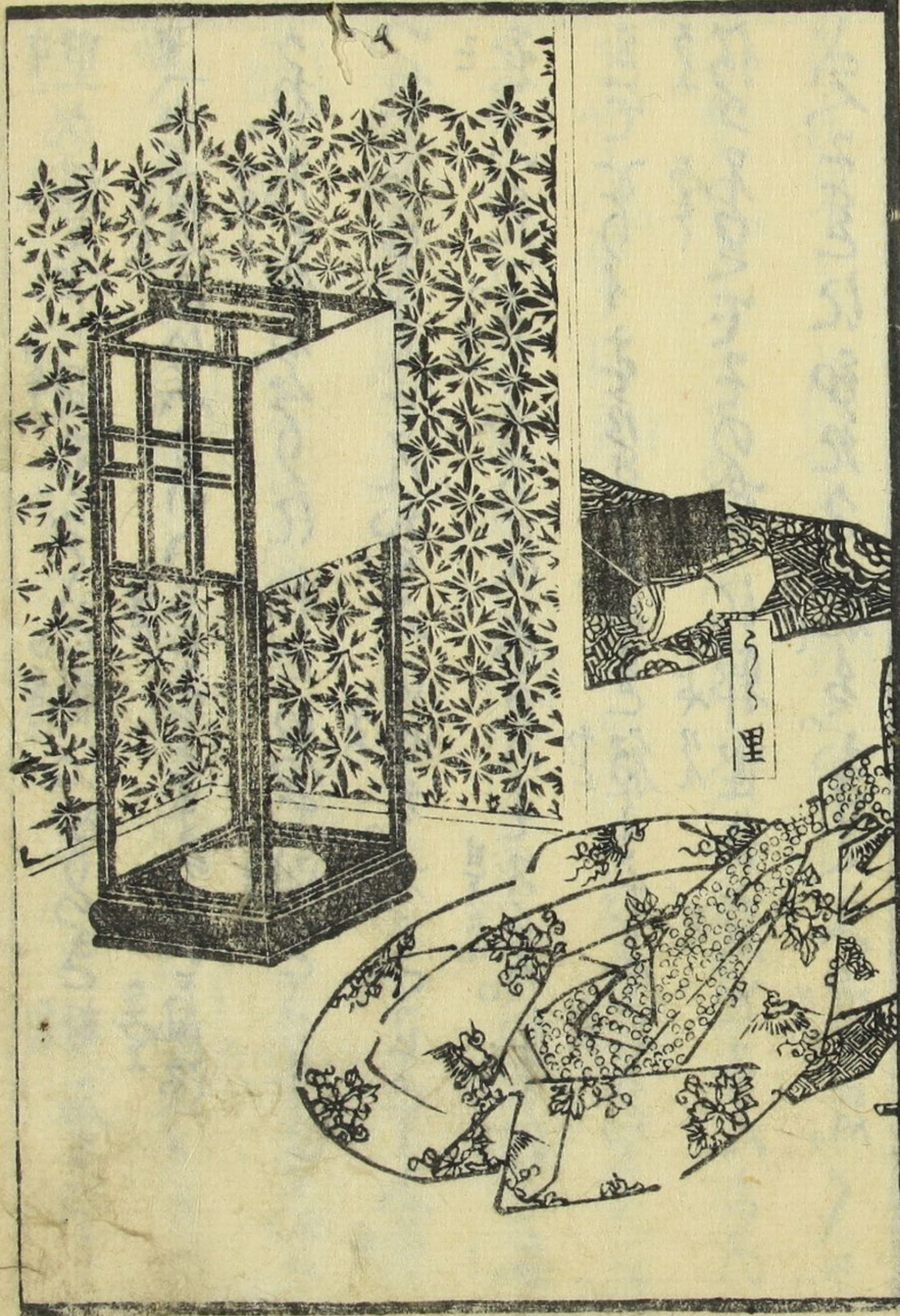
ままららとと。そのその劔けんとと千ち葉をののおお家けのの。ママララハハ七しち言ことハハ弟あにとと姉あね
 も。人ひととと殺ころししててううくくとと。おおののででああららるるババ律りつおおりり。ををままり
 言いははせせ娘むすめ君ぎみををままりり。ササアアおお松まつささんんとと一ひととと二ふた所ところ。そのその劔
 ととババ緊きん糸いとううりりとと一ひと心こころははししととトトもも早はやくくもも。朝あさにおおささめめと
 常つね娘むすめおお松まつかかのの修しゆ乃の老らうとと先さきみみとと。何なに方かたととままるる落おち
 りりせせりり。そそももくく修しゆ乃の老らうのの言ことををままりりののぞぞ。後のちのの編あまみみて
 詳こまししにに解とくく。ままぐぐそのその説せつ話わハハ休やす題だい。ままももままりりおおり
 武ぶ藏ざうるる。隅すみ田でん川がはら原らととららちち越こええてて。場ばももままりりととし

鳴や西より流水清うして。築洲は茂るよりあじ
も。このうらたふと多りあく。稀に漕舟なる舟後その
唄さるも風雅なり。東を耕地平らうあして此処や
彼処の一構ハ世とくび入の困居の家作田園眼
もあよたぬまで鴻雁とよみぐる畔とほそ。あや夜の
床の表とくろくと鳴ゆと多枕よ近く。現よ世に
あそぶあまの人の四角る文字の待客も。言乃
茶あまの捨野。実よ困清の水郷なり。口よハ

松と拙るあま垣を時多茶山花や徒びとめ
宵の雨石燈籠も二ツ三ツ柴の折戸の裏床
く。偲りあまらるそのらちに終る終して頃と強ひ
調子茶色ぬ琴の音ハ。さらよ小督のひあしも。
あまあらよして垣の外に。狸むむ遊客二三人。あ
に一人が眉よ皺。今あの髪よといひるがら。耳と洗
して笑居る。おくら冬の餅やて。築然とことあり
くる雪一ツアこりやア。たふさぐ。あまのこりあま

新世二め九

十一



木下九

十一

里




福の娘

時之助

十一

作者 為永春水 

画工 柳川重信 

大坂書林 河内屋茂兵衛

書 西村屋與八

馬喰町二丁目
通油町

江戸 越前屋長次郎

林 美濃屋甚三郎梓

秘傳の九功能書

小半割入
代白二十四

第一かきものつらさ系みむかひの思ふはるる
いれまわして海もきかしくむねも思ふはるる
のどを氣も守りゆく後るの思ふはるる
かへばまゝにせむらひの思ふはるる
物も魚のめらりゆへに思ふはるる
たらしりむねの思ふはるる
志もくさるる思ふはるる
月もあつた思ふはるる
あふた思ふはるる
さんか思ふはるる
男も女も思ふはるる
氣も守りゆく思ふはるる
付也思ふはるる

先此紙書... 江戸兩國横山町二百大坂屋平蔵

本家 江戸兩國横山町二百大坂屋平蔵

取 高崎郡... 千住三丁目...

Table with multiple columns and rows of handwritten text, likely a ledger or record book. Headers include characters like 取, 浦, 産.

